

+1(プラスワン)



「イエス！その道」

牧師 横山順一

キリスト教界では、この季節を「秋の伝道シーズン」とよく言う。どうしてか？十一月第一日曜の永眠者記念礼拝があるからか、それとも十月第三日曜から「信徒伝道週間」からなのか。

それとも、単に気候が良いので集会などを催しやすいからなのか。理由は定かではないが、確かに伝道集会と称して、名の知れた牧師や神学部の方を招くことが多い。バザーを開催する教会も少なくない。

一方で、社会的にも運動会やら社員旅行やら行事が続くので、昔と違って、教会の伝道集会は人が集まらなくなった。

伝道師の頃など、駅やら大きなマンションやりに、教会の伝道委員会のメンバーと赴いて大量のチラシを配ったものだ。新聞広告にもお金をかけてみたが、例えば三万枚配布して、それを見て来ましたと言う人は、せいぜい数名に過ぎなかった。

それで最近では、いかにもそれらしい伝道集会は相当に減った。無理もない。代わって音楽集会（ほとんどコンサート）がめっきり広まった。ただ、それもまた一つの手段に過ぎず、なかなか新企画が生まれなくて悩ましい。

「伝道」を「伝導」と間違えられることがある。伝道は、道（イエスの）を伝えることであって、伝え「導く」ことではない。

九月十三日に三十一歳で急逝した香住教会の小林拓哉牧師。箕面教会で青年期を過ごした。

お父さんが神和教会の牧師だったが、早くに（阪神淡路震災後）に天に召された。

後をついでお母さんのよう子女さんが牧師となり、箕面教会へ赴任した。

妹たちともども、教会にいたのが当たり前の、パスターズキッズ（牧師の子ども）として育った。

関西学院神学部に進んだが、いざ洗礼を受ける段で、当たり前ではない世界を知らされ、終わりはなく始まりのために洗礼を受けたと、お別れの会で聞いた。常々、神さまは洗礼を受けているかどうか

かを問われるような度量の狭い方ではないと考えていたという。

全く同感だ。

先日、御影の地域を、「悔い改めましょう。そのままで天国には入れません」と、大音響で流しているどこかの教会の車があった。

他教派のやり方をうんぬんしたくはない。だが、いち牧師として恥ずかしかった。と言うより、脅しているようで情けなかった。

〇〇しなければ、救われないなどと誰が条件をつけたのか。イエスが十字架で亡くなったのは、何のためだったか。それだけで足りないのか。

ルターは行いではなく、「信仰のみ」、それが神の義と悟った。神さまが下さる信仰に立ち、そして応えて行けば良い、と。

それから五百年。未だ私たちは行いに引きずられてはいまいか。逆に、応答の信仰から行いが生まれるはずだ。

算段なしに近所の子どもたちと遊んでいた小林牧師を偲びつつ、イエスを伝える道を、重々しくではなく軽やかに踏みしめたいと思っている。